

ベナンと日本の共通点

在ベナン日本国大使館

ベナンは日本ではあまり知られていないアフリカの小国ですが、食文化を始めとして日本との意外な共通点があります。

日本食と言えば、多くの人はず米と魚を思い浮かべるでしょう。ベナン人も米と魚を多く食べます。魚はベナン人が摂取する動物性タンパク質の53%を占めるほどです。漁港に行くと様々な魚が売られており、鯛やクエ等の日本では高級魚とされる魚も並んでいます。値段は魚の種類にかかわらず1キロ700円前後で、日本と比べると非常に安価であると言えるでしょう。ベナン人は元来トウモロコシやキャッサバを主食にしていたので、米が食べられるようになったのはフランスによる植民地化以降に外国人がやってくるようになってからです。しかし、現在は、米はベナン人の日常生活に根付いたものとなっており、トマト等と混ぜて食べられています。日本は毎年ベナンに対して米の食糧援助を行っていますが、日本米の人気は高く、数千トンの米が数週間で売り切れてしまいます。

日本とベナンの共通点は食文化だけではありません。ベナンの道を車で走っていると道路や家の前の掃除をしている人をよく見かけます。ベナン人も、日本人と同様にきれい好きなのです。欧米では、学校の掃除は清掃業者が行っており、日本の子供が自ら学校の掃除をしているのを見て驚かれることがよくありますが、ベナンでは日本と同様に子供が学校の清掃を行います。貧しい国なので、校舎は日本人から見るときれいとは言えないかもしれませんが、内部は非常に清潔に保たれています。

このようにベナン人には掃除をする習慣が身につけていますが、医療の分野等においては、物品の管理や設備の整頓等にまだまだ課題があり、JICAの青年海外協力隊や専門家が日本の5Sの概念（「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」）の普及に取り組んでいます。

このような文化的共通点もあってか、ベナン人の日本文化に対する関心が非常に高まっています。ベナン最大の都市であるコトヌ市には、日本で活躍するベナン人のゾマホン氏が設立した「たけし日本語学校」があり、多くの方が日本語を学んでいます。また、柔道や空手といった日本のスポーツをする人も増えており、2020年の東京オリンピックでは、ベナン代表選手が日本代表選手と試合を行うのを目にすることがあるかもしれません。



学校で掃除をする子供

(了)